

活動団体： 公益財団法人 PHD 協会

～平和と健康を担う人づくり～

団体の活動



Peace(平和)、Health(健康)、Human Development(人づくり)の頭文字から名づけられた、草の根の国際交流・協力に取り組む団体です。アジア・南太平洋地域から、これから地域の未来を担う青年を研修生として日本に招き、農業、保健衛生、教育などの研修を行っています。また、研修生が帰国した後も継続してフォローアップを行い、研修で得た学びをそれぞれの地域で生かしていけるよう支援しています。人と人とのつながりを大切にしながら、草の根からの地域づくり、人づくり、そして人々の生活向上に協力しています。

<http://www.phd-kobe.org/>



ネパールでの元研修生のフォローアップ、事業展開に向けた打合せ、通訳業務の様子



元研修生とのオンライン面談の様子
日本での研修終了・帰国後の活動や新たな挑戦の進捗を確認し、次の行動につなげるための機会づくり

インターンプロフィール

山本 真記子

生まれつき聴覚障害があり、医療福祉を専攻して福祉系の国家資格を取得。

その後、フィンランドへの留学を通して聴覚障害者の国際協力について学び、手話キャスターや書籍出版、世界一周など、さまざまな経験を重ねてきました。

これまでの経験を通して国際協力への想いを強め、現在は PHD 協会の一員として、研修生のフォローアップ、SNS 広報、会計業務などに携わっています。

所属団体で活動するきっかけ

10年前から「毎年3つの新しいことに挑戦する」という目標を継続しています。その中でPHD協会と出会い、ネパールでの研修生の面接選考に同席したことをきっかけに国際協力の現場により深く関わりたいという思いが強まりました。その後ご縁があり2025年に入職しました。

どのような業務(活動)をおこなっているか

PHD協会の45年の歴史において初めて聴覚障害のある研修生を招聘するにあたり、職員と研修生との相互コミュニケーションを支える通訳や帰国後フォローアップを担当しています。広報業務ではSNSでの情報発信にも取り組み、PHD協会の活動をより多くの方に知っていただき、理解を広げていくことを目指しています。

1年目を終えて感じたこと

国際協力を「支援する側」と「支援される側」に分けて考えるのではなく、共に学び、考え、次の一歩をつくっていく関係が大切だと実感しました。研修生の通訳やフォローアップ、現地での元研修生との交流を通して、支援は制度や仕組みだけで成り立つものではなく、人と人との信頼関係や一人ひとりの声に耳を傾けることによって成り立っていることを学びました。特に聴覚障害のある研修生との関わりを通して、情報が十分に届くことが、学ぶ機会や自信、次の行動につながることを実感しました。一方で、通訳として自分の力量や責任の重さを感じる場面もあり、自分自身もまだ学び続ける立場であることを強く意識するようになりました。今後も「支援する」という言葉を一方的なものにせず、お互いの経験や知識を持ち寄りながら共に学び、成長できる関係を大切にしていきたいです。

スキルアップのためにしていること

日本手話と国際手話の運用力を高めるため、多国籍のろう者との交流を重ねながらさまざまな手話表現や語彙を磨いています。異文化理解や語学力の向上にも取り組み、国際協力に関する最新の動向についても継続的に学んでいます。また、広報力を高めるためにオンライン学習などを活用しながら発信スキルの向上にも取り組んでいます。

海外研修について ～どこで何を行う予定？

2026年7月10日～16日にネパール(カトマンズ、バクタプル)を訪問し、現地の聴覚障害者の就労支援事業の具体化に向けた視察や打合せ、フォローアップを行いました。

現地の聴覚障害者を取り巻く教育・職業訓練・社会参加の現状を知り、関係性を深めながら、今後の支援や協働の可能性を模索しています。

今後のビジョンは？

国際研修の運営に関する専門性を身につけるとともに、福祉系の国家資格やこれまでの経験を生かしながら国際協力の実務スキルや広報力をさらに高めていきたいと考えています。そして発信活動を通じて新たな学びや気づきを届け、聴覚障害者の国際協力への参加や国境を越えた相互理解につなげていきたいです。

国際協力分野で活動を目指す人へのメッセージ

国際協力は、「助ける側」と「助けられる側」という関係で捉えられがちです。ですが、私は上下関係ではなく、お互いの経験や知識を共有しながら共に学び、成長していく対等な関係が大切だと考えています。一人ひとりの違いを越えて学び合うことが平和な未来につながっていくと信じています。

国際協力の現場で、ともに切磋琢磨できる仲間が増えていくことを嬉しく思います。ぜひ、一緒に頑張りましょう！

団体のアピール

PHD 協会は設立から 45 年目を迎えました。これまでの国際協力・国際交流活動に加え、コロナ禍以降は国内の困窮外国人支援にも力を入れています。
2020 年度からは、居住支援の場としてシェアハウス「みんなのいえ」も始動しました。時代や社会の変化に合わせて活動の幅を広げながら、人と人とのつながりを大切にしたい取り組みを続けています。